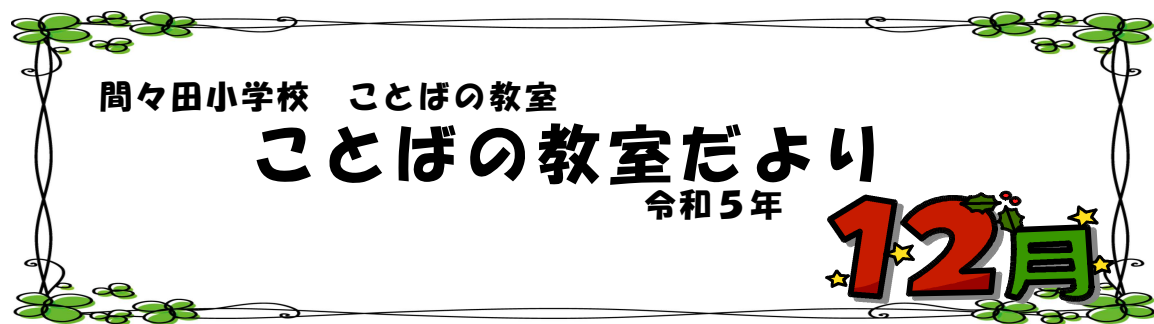




いよいよ師走です！

1年間で一番長い2学期も残りわずかとなりました。学校によって違いはありますが、スポーツフェスティバル・宿泊学習と大きな学校行事続きの忙しい学期でした。ことばの教室でも、その都度話をよく聞いたり、頑張りをほめたりしてきましたが、子どもたちにとって、やはりお家の方の言葉が一番のようでした。次にひかえているのは、冬休み。大人にとっては、何となく気ぜわしく多忙な年末年始かと思えます。でも、子どもたちにとって、「〇年生の冬休み」は一生に一度。ぜひ、一緒に大掃除をすとか、買い物にいくとか、親戚の人に会うとか、またその時の挨拶の仕方を教えるとか……、日常的なことでもいいのです。時間を共有し、「この冬休みはお家の人とこれをした！」とお子さまの心に残るようなひとときをお過ごしください。



～日本の伝統「冬至」～

12月22日は1年で最も夜が長くなる冬至です。冬至にかぼちゃを食べるのは有名ですが、「冬至の七草」があるのを知っていますか。

冬至の七草

1. なんきん(かぼちゃ)
2. れんこん
3. にんじん
4. ぎんなん
5. きんかん
6. かんてん
7. うndon(うどん)

これらの「ん」が2つつく食べ物を、冬至の日に食べると運がつく、風邪を引かない、出世すると言われています。

みなさんも冬の七草を食べ、寒い冬を元気に乗り切りましょう！



発音の誤りのある子に、生活の中で気をつけることは？

よく聞きましょう よいモデルとなりましょう

子どもの話の内容によく耳を傾けましょう。「話したい」という気持ちが、発音を育てる芽になります。大人がよく話を聞くと、子どもの「話したい」という気持ちがぐんぐんわいてきます。そして、話を聞く態度も育っていきます。

子どもが間違えて発音した場合には、間違えた音を指摘しないで、さりげなく正しい発音を繰り返しましょう。例えば「サカナ」を「タカナがね」と発音した時に「サカナがどうしたの」といった具合です。

口の中や周り(あご・舌・口唇など)の動きをよくしましょう

食事や遊びを通して、口の中や周りの運動機能を高める工夫ができます。いくつか例をあげてみますので、これらを参考にして家庭でアレンジしてみてください。

* かむ

かむことは、あごの発達を促すだけでなく、口の中の感覚を高めます。

根菜類・いか・肉など、よくかんで食べる必要のある食材を、食卓に並

べましょう。また、きゅうりやにんじんなどをスティック状に切るなど、かむことを意識して工夫してみるのもよいでしょう。

* 吸う・吹く

飲み物はストローを使って飲んでみましょう。ストローの太さや長さ等いろいろ変化させてみるのもいいと思います。ラーメンやうどんの熱いおつゆをフーフー吹いて冷ますのも大切な動作です。シャボン玉・へび笛・ラッパなど、吹く遊びを親子で楽しみながらしてみよう。

吹くこと・吸うことは、発音の基礎となる呼吸のコントロールを向上させるためにもとても大切なことです。

* なめる

なめることは、舌の動きを高めます。ペロペロキャンディーやソフトクリームを舌先でなめるなどしてみましょう。

* うがい・歯みがき

うがいは、口や舌の奥の方の動きを高めます。歯みがきは、歯ぐきや口の中をマッサージすることで、感覚を高めます。毎日続けることが健康や清潔のためだけではなく、発音を育てるうえでも大切なことです。

* 鼻をかむ

鼻で呼吸すること、鼻を片方ずつかめるようになることも大切なことです。かんでみせたり、手を添えたりしながら、鼻をしっかりかめるようにしておきましょう。

(親の会手引き書より抜粋)

